

 **山九株式会社**

証券コード：9065

<http://www.sankyu.co.jp>



株主の皆様へ

第106期 (2014年4月1日～2015年3月31日)



# Thank you 便り



**PLANT ENGINEERING**

**LOGISTICS**

**OPERATION SUPPORT**

安全

品質

コンプライアンス

山九のユニーク  
**UNIQUE**

Obrigado

감사합니다

Terima kasih

ありがとう

شكرًا

Merci

धन्यवाद

謝謝

Gracias

Salamat

Thank you

ขอบคุณ ครับ

Dank u wel

CẢM ƠN

**!** 平和島ロジスティクスセンター開設

老朽化した平和島流通センターの拡大・新設を進めてきましたが6月12日に開設しました。ニーズの多様化が見込まれる都市型ロジスティクスに対応する、免震構造、電子セキュリティ機能、トランクルームも備えた首都圏の最新鋭倉庫であり、ジャストインタイム物流の拠点となります。都内配送や羽田航空便に適した立地で、輸出入通関、配送など倉庫内の入出庫オペレーションや保管だけではなく、倉庫内作業の前後の作業にも対応可能です。



平和島ロジスティクスセンター

**!** コークス炉改修を初受注

山九グループは、2014年12月、新日鐵住金株式会社殿の君津製鐵所第4コークス炉改修にて、機械工事の一部を受注しました。老朽コークス炉の刷新で主流になりつつあるパドアップ工法による改修案件で、山九グループ初のコークス炉改修の受注となります。高炉改修で培った工事技術やノウハウを生かした短工期施工等の提案が評価されました。国内では経年劣化に伴うコークス炉の刷新計画が相次いでおり、2014年10月に立ち上げた「コークス炉プロジェクト部」を中心に、受注拡大を目指してまいります。



(イメージ)

将来情報に関するご注意

本誌の掲載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測にはリスクや不確定要素が含まれており、実際の成果や業績と大きく異なる場合がありますのでご注意ください。

CONTENTS

ニュースフラッシュ ..... P 1  
 株主の皆様へ ..... P 2  
 よくあるご質問 ..... P 3  
 クローズアップ ユニークなビジネスモデル ..... P 5  
 中期経営計画の進捗 ..... P 7  
 山九グループトピックス ..... P 9  
 連結財務情報 ..... P11  
 単体財務情報 ..... P13  
 会社情報 ..... P14

**「創立100周年の先を見据えた収益力強化」を最重要課題に位置づけ、お客様に選ばれ続ける質の高いグローバルなサービスの構築や、原価率低減と間接費のミニマム化に山九グループの総力を挙げて取り組んでまいります。**



代表取締役社長 中村 公一

このような環境下、山九グループの物流事業分野は、コンテナや輸出入貨物の取扱量ならびに海外での構内作業が順調に拡大しておりますが、低稼働資産の集約や人件費などの価格転嫁を含む収益性の改善は道半ばであり、今後、更に収益性の向上を進めてまいります。一方、機工事業分野では一部海外で不採算工事が発生いたしました。国内の作業領域は中期的な見地で着実に増加し、これに必要な要員の動員力と流動化の基盤を形成、強化いたしました。この結果、当期は、増収増益となりました。

株主の皆様には、平素より格別のご支援とご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

山九グループの第106期の経営成績をご報告するとともに、今後の方向性についてご説明申し上げます。

山九グループは、当期までの3年間の中期目標として取り組みました「売上高4,500億円」「平成23年度比海外売上高50%増」については達成いたしました。しかし、「営業利益率5%」については未達となりました。これを受け、基盤となるコスト競争力の強化を最重要課題と再認識し、お客様に選ばれ続ける質の高いグローバルなサービスの構築に向け、グループの総力を挙げて取り組んでまいります。

当期の世界経済は、原油・資源価格の軟調な動きなどにより力強さに欠けるものの、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、国内経済は、消費税増税などから個人消費は停滞いたしました。安・原油安の影響で貿易赤字は縮小し、企業の収益は大幅に改善いたしました。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月

## 山九グループをより深く理解していただくために 株主の皆様からの よくあるご質問にお答えいたします。

### ? 当期の業績について

国内外の経済環境が緩やかに回復する中、山九グループでは受注拡大とコスト低減に努めてまいりました。その結果、売上高は4,812億91百万円と前期比10.8%の増収となり、利益面においても営業利益が212億53百万円と28.3%、経常利益が214億59百万円と42.2%、当期純利益が117億50百万円と28.4%のそれぞれ増益となりました。これを受け、当期配当金額を1円増額し、10円といたします。

### ? セグメントごとの状況について

物流事業は、船内および港頭倉庫の荷役作業の増加、内航定期船作業の輸送効率化による収益率改善等

に加え、3PL事業は国内の消費財および電子部品取扱量が増加、単価改訂も徐々に進み、事業収益は着実に改善しました。国際物流は海外の輸送作業が端境期で利益面では低調となりましたが、構内では国内の製鉄所関連作業が年間を通じて好調に推移しました。売上高は2,519億20百万円と前期比7.5%の増収、営業利益は57億58百万円と7.7%の増益となりました。

機工事業は、大型高炉改修の収益改善を図るとともに、鉄鋼関連のお客様の構内製造基盤整備工事や構外での電力関連設備復旧工事等がありました。また、SDM（大型定期修理工事）メジャーに伴う工事量の大幅増加が増収に寄与し、収益率も前期比で大幅に改善しました。売上高は2,075億55百万円と前期比14.8%の増収、営業利益は139億91百万円と40.4%の増益となりました。

その他事業では、建設用仮設材等の賃貸が増加したことなどから、売上高は218億15百万円と前期比12.7%の増収、営業利益は12億8百万円と25.5%の増益となりました。

### ? 2016年3月期の見通しについて

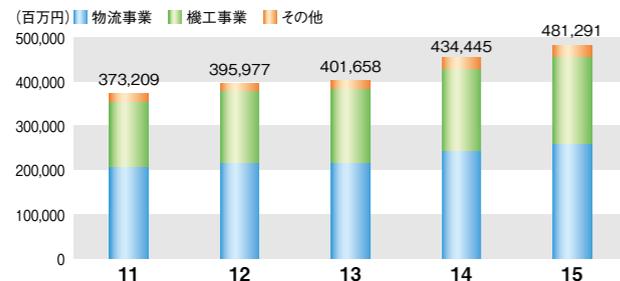
景気減速など懸念されるリスクはいくつかあるものの、世界経済の成長の腰折れは避けられ、全体では緩やかな回復基調を維持するものと見込まれます。一方、国内では円安・原油安の基調は年間を通じて見れば維持され、個人消費は徐々に回復するものと見込んでいます。設備投資も企業収益の好転を背景に、先送りしてきた老朽化対策や生産性向上のための製造基盤整備投資が実行段階に移ると予測しております。

山九グループは次期から始まる中期経営計画で「創立100周年の先を見据えた収益力強化」を最重要課題に位置づけ、取り組んでまいります。次期においては、物流事業では要員構造や低稼働資産など事業構造を抜本的に見直し、徹底した収益力向上を図ってまいります。機工事業ではコークス炉改修で付加価値の高い技術を蓄積し、今後の拡大に繋げてまいります。また、老朽化対策や製造基盤整備工事においても現有の要員の技術・動員力と流動化の拡大に努めてまいります。

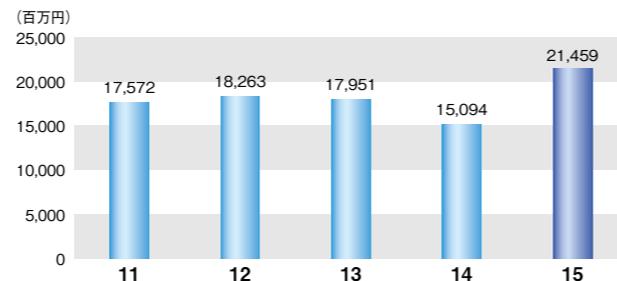
以上のことを踏まえまして、2016年3月期の業績見通しにつきましては、売上高4,800億円、営業利益220億円、経常利益213億円、当期純利益136億円を予想しております。

なお、中期経営計画の概要につきましては、7ページ、8ページをご覧ください。

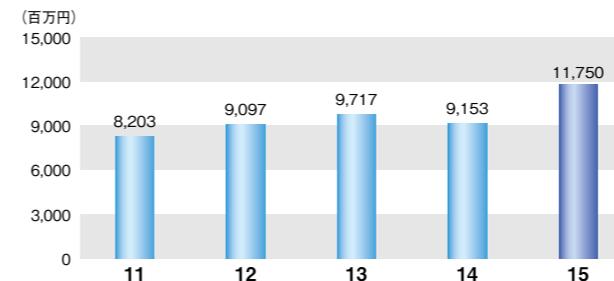
部門別売上高



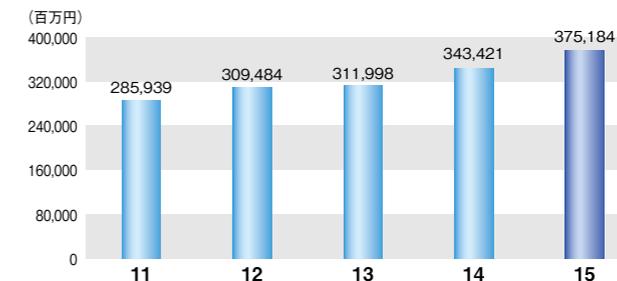
経常利益



当期純利益



総資産



## 「お客様への更なる貢献」のために

山九グループの総合力から生まれる独自のサービスを世界中のお客様にご提案してまいります

### 【山九のユニーク】の独自サービスとは

「プラント・エンジニアリング」「ロジスティクス」「オペレーション・サポート」の3事業が連携することでお客様の重要なビジネスをトータルにサポートできる世界にも類を見ないサービスです。

#### トータルサポートサービス

プラントの企画段階から、設計・建設・重量物輸送・据付・試運転、さらに、お客様の操業支援と設備のメンテナンス、調達・生産・販売までの各種物流にいたるまで、お客様の重要な事業をトータルでサポートできるビジネスモデルです。



### 日本精蠟株式会社 殿

#### サービス事例

日本精蠟株式会社が2015年の夏に稼働するタイの新工場で、工場設備の据え付けに加え、製品搬入や保管などの操業を一括で受注いただきました。据付等のプラント業務から日常メンテナンス等のオペレーションサポートまで協力させて頂き、山九のユニークを発揮いたします。



●日本精蠟殿のプロジェクトについての詳細はHPに掲載しているPR映像でも紹介しております。  
<http://www.sankyu.co.jp/company/gallery.html>

写真：日本精蠟株式会社殿 タイ工場

### 国内・海外の両方で お客様をトータルにサポートいたします

海外はまさに「山九のユニーク」が最大限に発揮できるステージです。工場の海外進出ではプラント・エンジニアリングが軸となり、操業・保全ではロジスティクス、オペレーション・サポートが強力にバックアップいたします。

### 知恵と柔軟な発想で お客様へ最高のサービスを提供いたします

山九グループが保有する多彩な資産と技術・技能を駆使しながら、重要なお客様設備の生産性向上と効率化を実現。さらに、事業領域の拡大、技術力の向上、グローバルネットワークの強化に取り組んでいます。



日本精蠟殿徳山工場

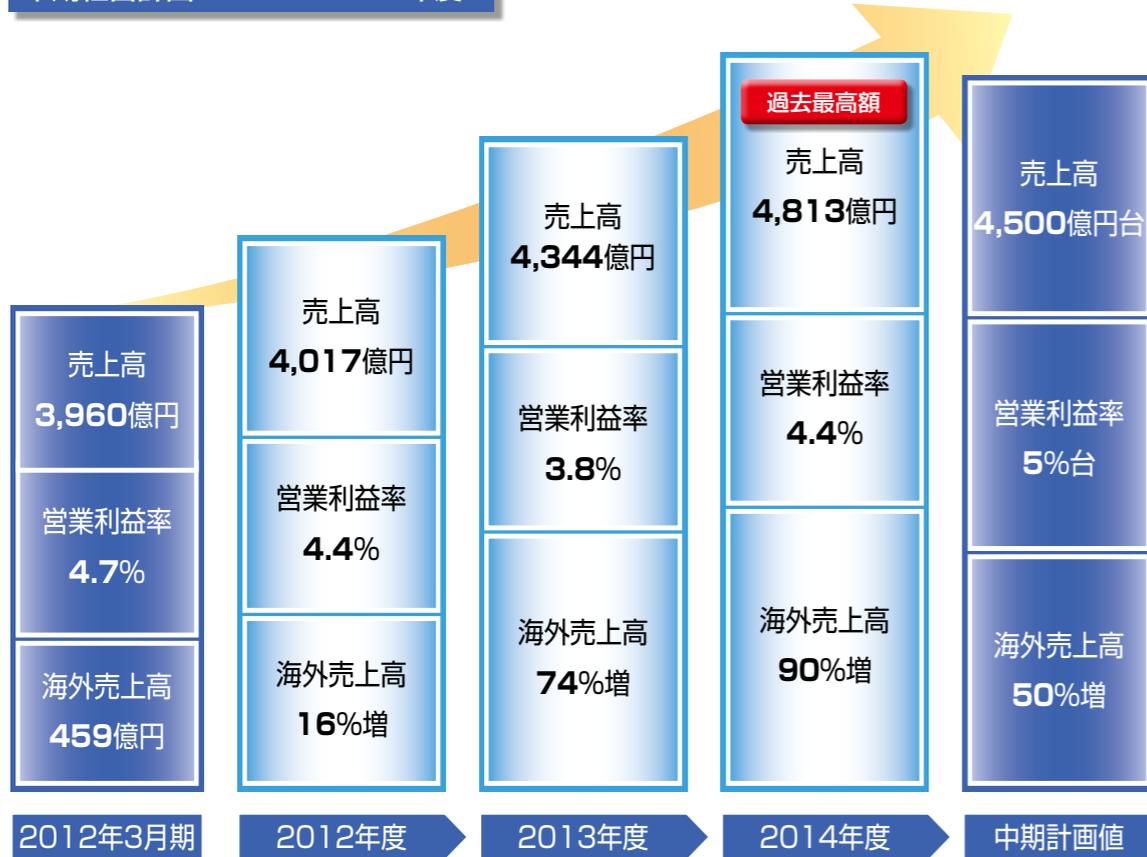
山九タイ ウェルグロー工場

日本精蠟殿タイ工場

山九レムチャバン アマタシティ物流センター

「将来にわたってお客様から選ばれる企業であり続ける」ために

中期経営計画 2012-2014年度



次期経営計画

3ヶ年の中期経営計画の最終年度となる2014年度は、3つの目標の内、「売上高4,500億円台」、「平成23年度比海外売上高50%増」については、数値目標を掲げた事が「ブレイクスルー」に繋がりました。一方「営業利益率5%台」については未達となりました。

創立100周年の先を見据えた収益力強化

次期経営計画 2015-2017年度

持続的な成長と安定した財務体質を維持しつつ、成長に応じた株主還元と機動的な資本政策を実施

● ROE …… 9% (自己資本利益率) ● 営業利益 …… 240億円 ● D/Eレシオ …… 0.6以下 (負債資本倍率)

**プラント・エンジニアリング事業**  
最強のフィールドエンジニアリング集団としてグローバルに進化

- 電力エネルギー分野への参入
- EPTC事業の更なる強化・海外展開
- 国内外メンテナンス事業の強化・拡大
- 戦略的な大型設備投資
- プロジェクト管理体制の強化
- 人材育成と動員力強化

**オペレーション・サポート事業**  
グローバルにお客様構内の最適ソリューションを提供し安定収益を確保

- 「コークス炉の山九」を確立
- メンテナンスを足掛りにお客様の新規領域へ進出
- 海外事業の拡大 (日系進出 + 完全外資)
- 合理化・機械化・作業方法見直しによる生産性の更なる向上
- 人材育成と協力会社の能力向上支援

事業戦略



**ロジスティクス事業**  
支配貨物拡大と事業構造改革・生産性向上による収益力の向上

- 戦える事業構造への改革による競争力強化
- 既存事業の収益力向上
- 新規分野/新規領域への進出
- 海外拠点拡大によるネットワークの拡充
- 国際物流拡大に向けた仕組みの構築
- グローバル人材の育成

戦略費用と戦略投資

戦略費用: 30億円規模 (人財育成, 技術開発, グローバルネットワーク拠点強化)

戦略投資: 500億円規模 (国内外物流センター, 海外構内荷役機器, 国内外戦略機材等)

M&A: 柔軟に対応

<2015~2017年度> 別枠予算

**CSR** **2月** 福岡ヤフオク! ドーム  
ホームランテラスのネーミングライツ契約締結  
●地域のスポーツ振興と企業ブランド価値向上のために



レフトフェンス イメージ

山九グループは、福岡ヤフオク! ドームにおける「ホームランテラス」のネーミングライツについて契約を締結しました。ホームランテラスは2015年シーズンから新たにスタートするもので、既存の外野フェンスの前方に高さ4.2mのフェンスを新造した外野フィールドシートエリアです。地元福岡のスポーツ振興活性化に貢献すると共に、企業ロゴを露出することで、当社の企業ブランド価値向上につなげていきます。



SANKYU ホームランテラス イメージ

**技術** **3月** 「モーダルシフト取り組み優良事業者」に  
4年連続認定  
●地球環境にやさしいさまざまな取り組み

当社のモーダルシフトに対する取り組みが評価され、第12回「モーダルシフト取り組み優良事業者」において、4年連続で優良事業者の認定を受け、継続部門での表彰を受賞しました。今後も当社グループは、モーダルシフトをはじめとした、地球環境に優しい様々な取り組みを積極的に行っていきます。

大江守 ロジスティクス・ソリューション事業本部 副本部長 (左から3人目)

※モーダルシフト：  
トラックによる幹線貨物輸送を、  
大量輸送が可能な海運または  
鉄道に転換すること



**CSR** **4月** フェンシング女子  
大石葉菜選手を採用  
●アスリートの就職支援によるグループ一体感の醸成

日本オリンピック委員会が推進するトップアスリート就職支援ナビゲーション「アスナビ」を活用し、国際大会等で活躍が期待されているフェンシング女子の大石葉菜(おおいしかんな)選手を平成27年4月1日に採用いたしました。今後は、世界に挑戦する大石選手に安心・安定した生活基盤の中で競技活動に打ち込んでもらえるよう、競技活動をサポートし、社員が一丸となって応援することで、山九グループの一層の一体感の醸成を目指していきます。



大石葉菜選手

**海外設備** **5月** サイゴン物流センターが竣工  
●ベトナム南部日系最大の物流センター

ベトナム南部のドンナイ省に新設していた新倉庫が、5月に竣工しました。新倉庫の敷地面積は30,510㎡、2階建てで倉庫面積は20,800㎡、ベトナム南部における日系企業最大の物流センターです。立地はこれからの発展が期待されるニョンチャックⅢ工業団地に位置しており、2015年開通予定の東西ハイウェイ、今後ベトナムの主要港として計画されているカイメップチーパイ、そして2020年に開港予定のロンタン国際空港に至るまで、優れたアクセスを誇ります。



サイゴン物流センター



**国内設備** **5月** 西神戸物流センター開設  
●免震構造の次世代型エコ倉庫

山九グループは5月、神戸市が展開する複合産業団地「神戸テクノロジースティックパーク」に位置し、20,000㎡の敷地面積に28,613㎡の延床面積を有するBCP対応を考慮した免震構造4階建ての、西神戸物流センターを開設しました。電子機器を主要取扱貨物とする、セキュリティ・エコ機能も備えた次世代型物流センターです。



西神戸物流センター

**海外展開** **5月** 台湾物流会社の株式取得  
●中華圏事業の物流ネットワーク構築

山九グループは、台湾の昭安国際股份有限公司の物流子会社である、昭安物流股份有限公司社の株式70%を4月に取得し、山九昭安国際物流股份有限公司(山九昭安)として営業を開始しました。日本・中国・東南アジアとの貿易量が拡大する台湾を中華圏事業のハブとして物流ネットワークに加えることで、アジア物流の優位性を更に高めることを目的としています。



台北桃園物流センター

連結貸借対照表(要約)

当期：2015年3月31日  
前期：2014年3月31日  
(単位：百万円)

科目	当期	前期
●資産の部		
<b>流動資産</b>	<b>171,511</b>	<b>153,572</b>
現金及び預金	38,777	27,288
受取手形及び売掛金	114,476	111,194
その他	18,257	15,088
<b>固定資産</b>	<b>203,672</b>	<b>189,849</b>
有形固定資産	143,949	134,398
無形固定資産	14,533	15,244
投資その他の資産	45,189	40,207
<b>① 資産合計</b>	<b>375,184</b>	<b>343,421</b>
●負債の部		
<b>流動負債</b>	<b>142,853</b>	<b>125,234</b>
支払手形及び買掛金	68,039	61,139
短期借入金	26,863	37,673
その他	47,950	26,421
<b>固定負債</b>	<b>86,947</b>	<b>85,043</b>
社債	12,000	12,000
長期借入金	30,554	28,165
退職給付に係る負債	29,028	29,062
その他	15,363	15,815
<b>② 負債合計</b>	<b>229,801</b>	<b>210,278</b>
●純資産の部		
<b>株主資本</b>	<b>132,467</b>	<b>125,562</b>
資本金	28,619	28,619
資本剰余金	12,272	11,943
利益剰余金	100,356	93,748
自己株式	△ 8,781	△ 8,750
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>9,814</b>	<b>4,560</b>
少数株主持分	3,100	3,020
<b>③ 純資産合計</b>	<b>145,383</b>	<b>133,143</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>375,184</b>	<b>343,421</b>

(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要約)

当期：2014年4月1日～2015年3月31日  
前期：2013年4月1日～2014年3月31日  
(単位：百万円)

科目	当期	前期
売上高	481,291	434,445
売上原価	443,024	402,670
<b>売上総利益</b>	<b>38,266</b>	<b>31,775</b>
販売費及び一般管理費	17,013	15,206
<b>営業利益</b>	<b>21,253</b>	<b>16,568</b>
営業外収益	2,532	1,871
営業外費用	2,325	3,346
<b>経常利益</b>	<b>21,459</b>	<b>15,094</b>
特別利益	757	517
特別損失	—	—
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>22,217</b>	<b>15,611</b>
法人税等	9,811	6,269
少数株主利益	654	188
<b>当期純利益</b>	<b>11,750</b>	<b>9,153</b>

① 資産合計の増加

債権回収による現金及び預金の増加、設備投資による有形固定資産の増加、ならびに投資有価証券の増加等により、前期末比317億62百万円増加し、3,751億84百万円となりました。

② 負債合計の増加

売上増加による外注費等の増加に伴う支払手形及び買掛金の増加や、設備投資に伴う長期借入金の増加等により、前期末比195億22百万円増加し、2,298億1百万円となりました。

③ 純資産の増加

利益剰余金の増加や為替換算調整勘定の増加等により、前期末比122億39百万円増加し、1,453億83百万円となりました。

連結株主資本等変動計算書(要約)

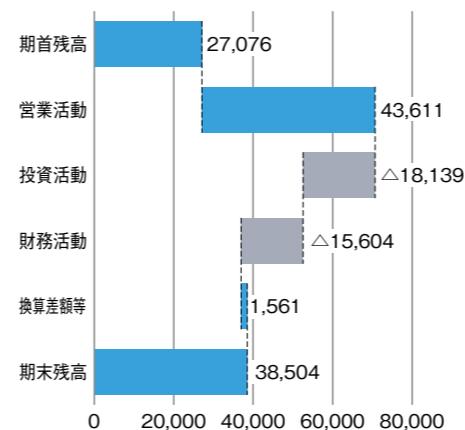
自 2014年4月 1日  
至 2015年3月31日  
(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額							少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累積額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	28,619	11,943	93,748	△ 8,750	125,562	6,914	△ 291	△ 1,734	31	△ 358	4,560	3,020	133,143	
会計方針の変更による累積的影響			△ 2,891		△ 2,891								△ 2,891	
会計方針の変更を反映した当期首残高	28,619	11,943	90,857	△ 8,750	122,671	6,914	△ 291	△ 1,734	31	△ 358	4,560	3,020	130,252	
当期変動額														
剰余金の配当			△ 2,715		△ 2,715								△ 2,715	
当期純利益			11,750		11,750								11,750	
連結範囲の変動			237		237								237	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						312	81	312	2,535	2,011	5,254	79	5,333	
その他		329	225	△ 31	523								523	
当期変動額合計	—	329	9,498	△ 31	9,796	312	81	312	2,535	2,011	5,254	79	15,130	
当期末残高	28,619	12,272	100,356	△ 8,781	132,467	7,227	△ 210	△ 1,422	2,567	1,652	9,814	3,100	145,383	

(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

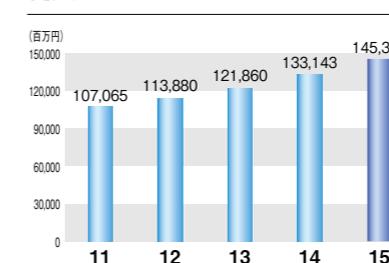
連結キャッシュ・フロー(要約)

(2015年3月期) (単位：百万円)

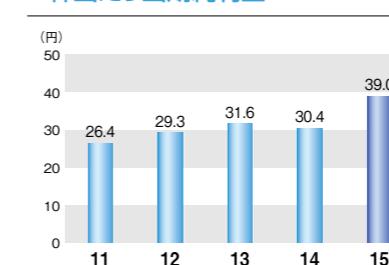


(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

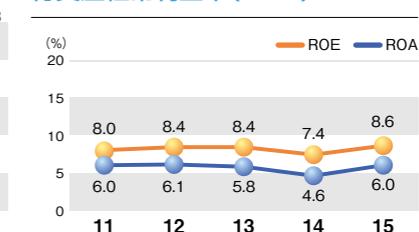
純資産



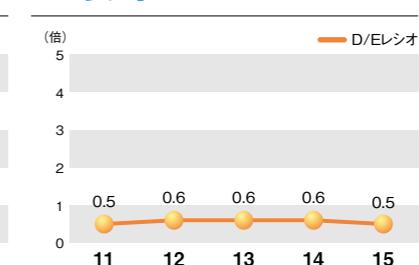
1株当たり当期純利益



自己資本利益率(ROE)/  
総資産経常利益率(ROA)



D/Eレシオ



単体貸借対照表(要約)

当期：2015年3月31日  
前期：2014年3月31日  
(単位：百万円)

科目	当期	前期
●資産の部		
<b>流動資産</b>	<b>96,188</b>	<b>94,931</b>
現金及び預金	4,403	5,125
受取手形及び売掛金	75,387	78,679
その他	16,396	11,126
<b>固定資産</b>	<b>185,110</b>	<b>175,585</b>
有形固定資産	118,253	111,645
無形固定資産	6,264	6,436
投資その他の資産	60,591	57,502
<b>資産合計</b>	<b>281,298</b>	<b>270,516</b>
●負債の部		
<b>流動負債</b>	<b>108,760</b>	<b>106,176</b>
支払手形及び買掛金	53,034	50,629
短期借入金	23,798	40,748
その他	31,926	14,798
<b>固定負債</b>	<b>77,950</b>	<b>75,851</b>
社債	12,000	12,000
長期借入金	29,645	27,943
退職給付引当金	26,017	24,890
その他	10,288	11,016
<b>負債合計</b>	<b>186,710</b>	<b>182,027</b>
●純資産の部		
<b>株主資本</b>	<b>89,282</b>	<b>83,704</b>
資本金	28,619	28,619
資本剰余金	11,943	11,943
利益剰余金	57,434	51,825
自己株式	△ 8,716	△ 8,684
<b>評価・換算差額等</b>	<b>5,305</b>	<b>4,784</b>
<b>純資産合計</b>	<b>94,587</b>	<b>88,488</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>281,298</b>	<b>270,516</b>

(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

単体損益計算書(要約)

当期：2014年4月1日～2015年3月31日  
前期：2013年4月1日～2014年3月31日  
(単位：百万円)

科目	当期	前期
売上高	346,094	315,883
売上原価	319,247	295,246
<b>売上総利益</b>	<b>26,847</b>	<b>20,637</b>
販売費及び一般管理費	10,081	9,423
<b>営業利益</b>	<b>16,766</b>	<b>11,213</b>
営業外収益	2,492	2,024
営業外費用	1,640	1,861
<b>経常利益</b>	<b>17,617</b>	<b>11,376</b>
特別利益	757	517
特別損失	—	—
<b>税引前当期純利益</b>	<b>18,375</b>	<b>11,893</b>
法人税等	7,418	4,272
<b>当期純利益</b>	<b>10,956</b>	<b>7,621</b>

1株当たり情報 (単体)

科目	当期	前期
当期純利益	36円32銭	25円26銭
配当金	10円	9円
純資産	313円57銭	293円30銭

コーポレートデータ

会社名 山九株式会社  
住所 〒104-0054 東京都中央区勝どき六丁目5番23号  
資本金 28,619百万円  
事業所 国内支店40、海外駐在員事務所1  
関係会社 国内51、海外現地法人41  
従業員数 10,981名  
お問合せ先 総務・CSR部 Tel.(03)3536-3939  
IRホームページ <http://www.sankyu.co.jp/ir/>

役員 (2015年6月26日現在)

代表取締役社長	中村 公一
代表取締役副社長	平栗 直樹
代表取締役専務取締役(管理管掌兼技術開発部長 CTO兼安全・環境統括)	吾郷 康人
代表取締役専務取締役(事業・エリア管掌兼エリア統括)	中村 公大
取締役兼常務執行役員(財務担当 CFO)	中里 康男
取締役兼常務執行役員(ビジネス・ソリューション事業本部長)	池上 僚一
取締役兼常務執行役員(プラント・エンジニアリング事業本部長)	美好 秀樹
取締役兼常務執行役員(人事・労政担当)	細井 研二
取締役兼常務執行役員(ロジスティクス・ソリューション事業本部長)	米子 哲朗
取締役兼常務執行役員(経営企画担当)	小川 隆
社外取締役	岡橋 輝和
社外取締役	堀 啓二郎
常勤監査役	野田 秀臣
常勤監査役	島田 正彦
常勤監査役(社外監査役)	武田敬一郎
社外監査役(弁護士)	小川 憲久

山九グループ概要

主な国内山九グループ	主な海外山九グループ
<ul style="list-style-type: none"> <li>●機工グループ 山九プラントテクノ 平和テクノス 中央テクノ</li> <li>●物流グループ サンキュウ・トランスポートグループ(6社) サンキュウ・シッピング 山九海陸 山九協港運 中部海運 スリーエス・サンキュウ</li> <li>●サービスグループ(その他) インフォセンズ サンキュウビジネスサービス 山九東日本サービス 山九中部サービス 中国ビジネスサービス 大分ビジネスサービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東アジア 山九東源国際(香港) 大連山九国際物流(大連) 上海経貿山九儲運(上海) 広州山九物流(広州) 青島山九亚太物流(青島)</li> <li>江蘇山九物流(南京) 北京山九物流(北京) 上海山九設備安装工程(上海) 太栄山九国際物流(韓国) 青島捷順利達物流有限公司</li> <li>●東南アジア・中東 山九東南アジアホールディングス 山九インドネシア 山九シンガポール 山九マレーシア 山九タイ 山九レムチャバン(タイ)</li> <li>タイバージコンテナサービス(タイ) 山九ロジスティクスベトナム 山九ベトナム 山九サウジアラビア 山九ARCC(サウジアラビア) 山九インド</li> <li>●米欧州 山九ユー・エス・エー 山九ヨーロッパ(オランダ)</li> <li>山九ブラジル 山九ロジスティクスブラジル</li> </ul>

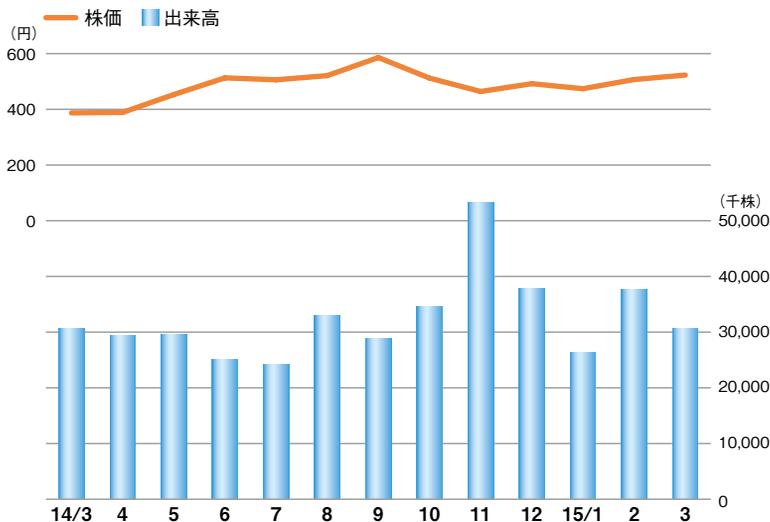
## 株式データ (2015年3月31日現在)

発行可能株式総数 1,000,000,000 株  
 発行済株式総数 326,078,030 株  
 株主数 15,340 名

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,985	5.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	16,523	5.48
新日鐵住金株式会社	10,080	3.34
公益財団法人ニビキ育英会	9,800	3.25
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	8,775	2.91
株式会社みずほ銀行	8,310	2.75
山九従業員持株会	7,122	2.36
JUNIPER	7,045	2.34
明治安田生命保険相互会社	6,000	1.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	5,264	1.75
合計	96,905	32.13

(ご注意) 1. 上記の他、当社保有の自己株式24,434千株(7.49%)があります。  
 2. 持株比率は自己株式を除いて計算しております。

## 株価・出来高の推移



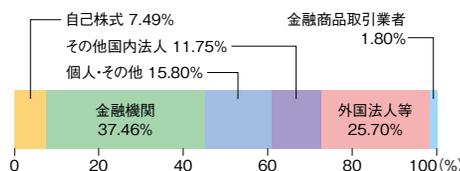
## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日まで
期末配当金	
受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-7111 (通話料無料)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.sankyu.co.jp/koukoku/">http://www.sankyu.co.jp/koukoku/</a> (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 所有株式数別構成比率



## 1株当たり配当金 / 配当性向

